

システム根太SG 施工要領書



【目次】

1. はじめに	…2
2. 製品仕様	
2-1. システム根太 SG とは	…2
2-2. 構成	…2
2-3. 材質	…3
2-4. 製品規格	…3～4
2-5. 床高調整範囲	…5
2-6. ナットとボルトの組み合わせ	…6
3. 施工手順	
3-1. 施工を始める前の確認・点検事項	…7
3-2. 施工手順	…8～11
4. 配置方法	
4-1. 一般部	…12
4-2. 入隅部	…13
4-3. 出隅部	…14
4-4. 柱型部	…15
4-5. パーティクルボードのかかり寸法について	…16

1.はじめに

本書は、「システム根太SG」の施工要領を記載しています。
本書をよく読み、正しくお取扱いただきますようお願いいたします。

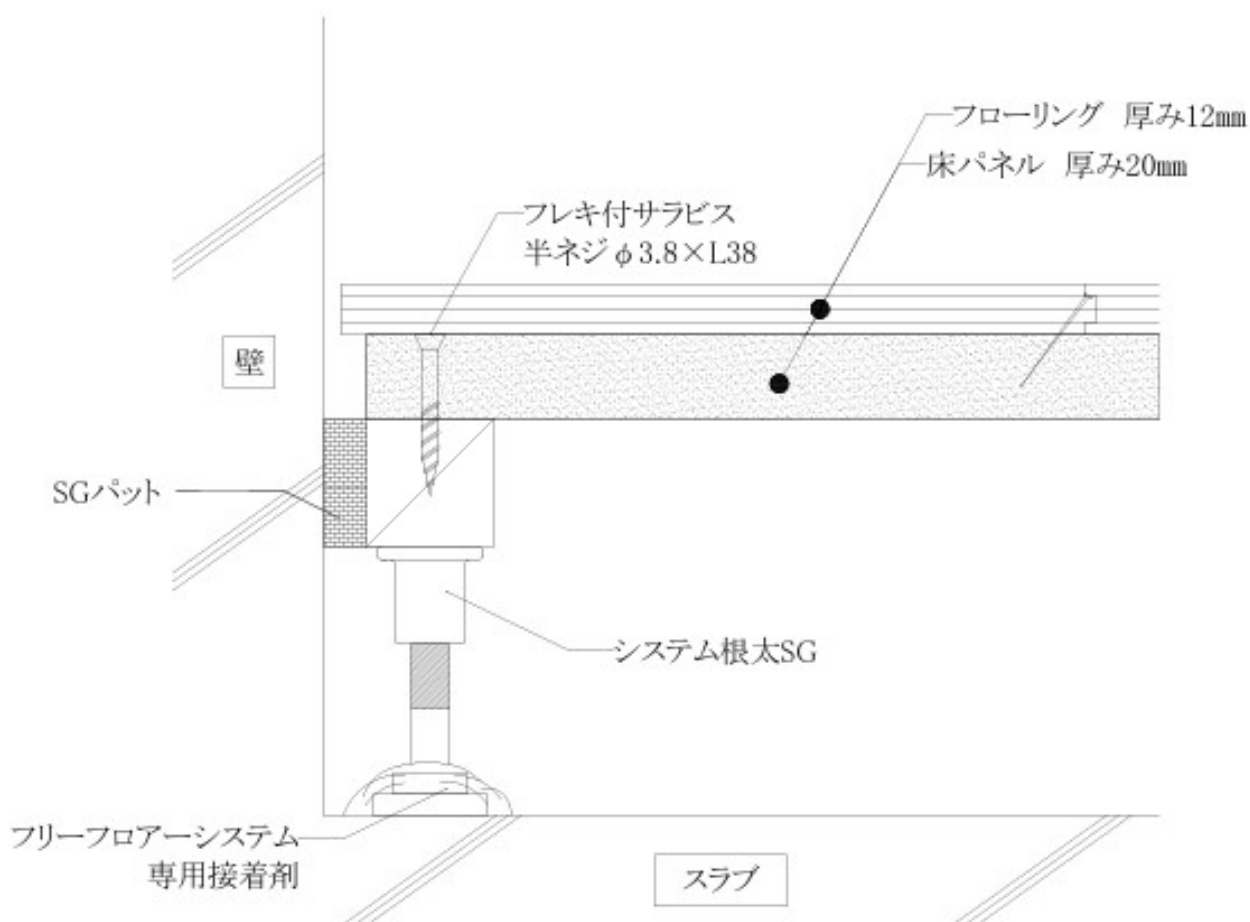
2.製品仕様

2-1 システム根太SGとは

LVL製の根太材と金属製の支持脚からなるきわ根太です。支持脚は金属製のナットとボルト(ゴム座付き)で構成され、ボルトを回すことによりレベル調整が可能です。

また、壁との間に SG パットを設けて壁と根太材の接触を避けることで、遮音性能を向上させることができます。

2-2 構成



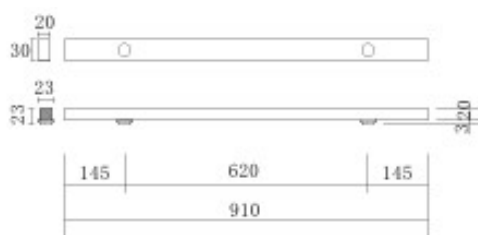
2-3 材質

部 材 名		材 質	備 考
システム根太SG (本体)	根太材 (低床用)	LVL(集成材)	・高さ 20×幅 30×長さ 910(mm) ・F☆☆☆☆
	根太材 (汎用)	LVL(集成材)	・高さ 30×幅 30×長さ 910(mm) ・F☆☆☆☆
	ナット	スチール	・2種類(Sナット、Mナット)
Sボルト、Gボルト (支持脚)	ボルト	スチール	・14種類
	ゴム座	スチレンブタジエンゴム (SBR)	・ゴム硬度 70° ・Φ36×高さ 10(mm)
SGパット(緩衝材)		発泡ポリエチレン	長さ 30×幅 10×高さ 15(mm)
フリーフローアーシステム 専用接着剤		1液型ウレタン系	・容量 400g/本 ・F☆☆☆☆

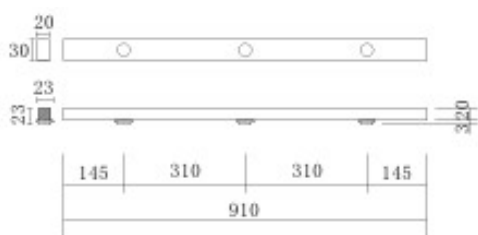
2-4 製品規格

〔システム根太SG 本体(根太材低床用)〕

システム根太SG 20×30×910-2S

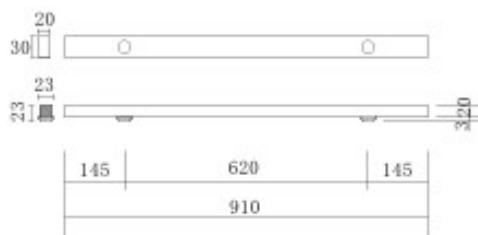


システム根太SG 20×30×910-3S

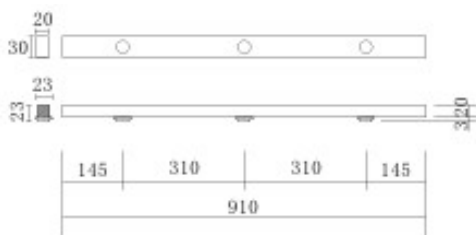


〔システム根太SG 本体(根太材汎用)〕

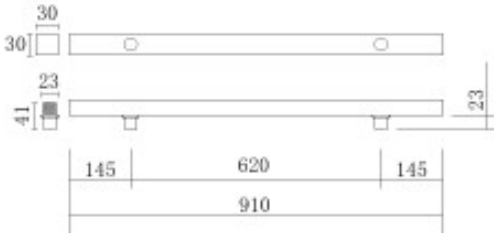
システム根太SG 30×30×910-2S



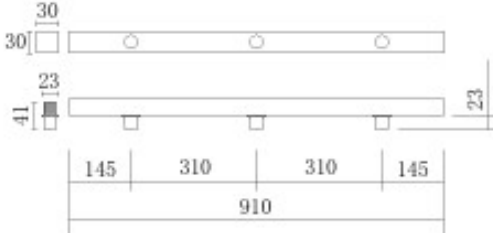
システム根太SG 30×30×910-3S



システム根太SG 30×30×910-2M



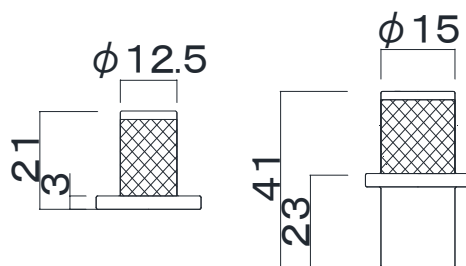
システム根太SG 30×30×910-3M



『システム根太SG 30×30×910-○△』の表記に関して

○:ナットの本数(2本もしくは3本) △:ナットの長さ(SナットもしくはMナット)

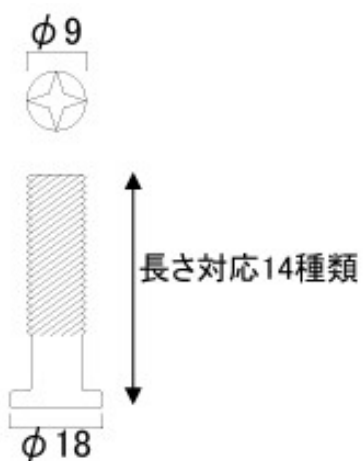
〔ナット〕



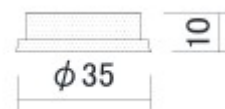
Sナット

Mナット

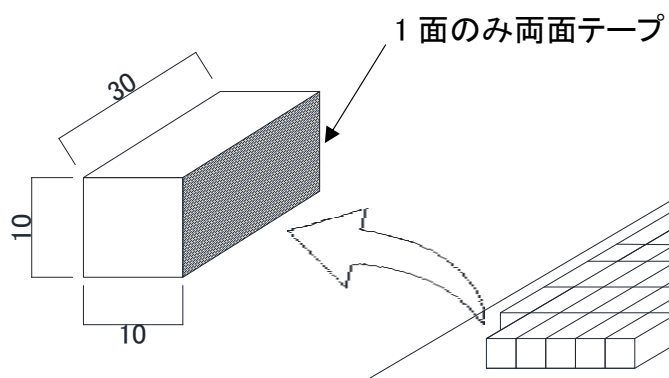
〔ボルト〕



〔ゴム座〕

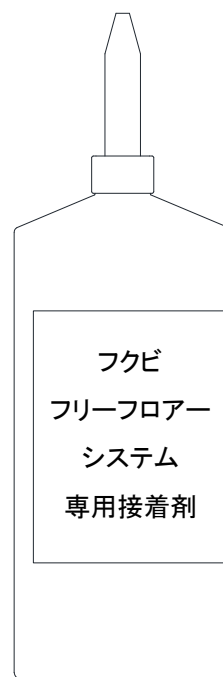


〔SGパット〕



※SGパットは一枚一枚離型紙から剥して根太材に貼り付けてください。

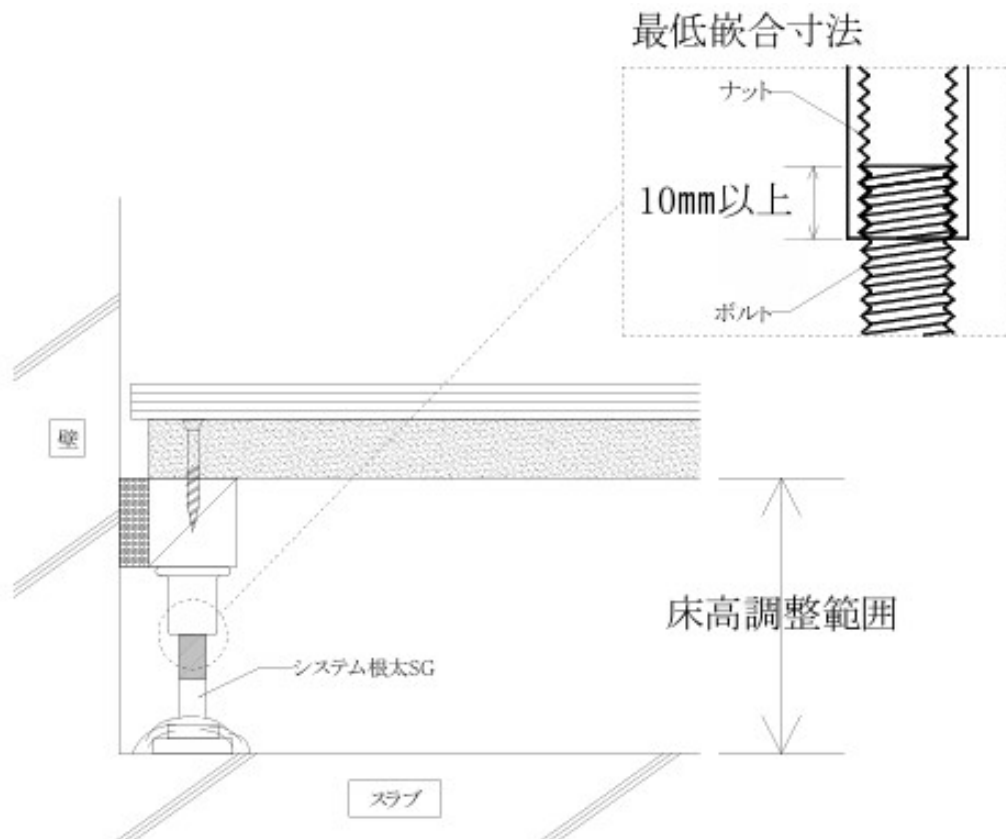
〔接着剤〕



容量: 400g

2-5 床高調整範囲

- ・最低嵌合寸法・・・10mm(ナットにボルトを嵌合しておくべき最低必要長さ[下図参照])
- ・調整範囲・・・スラブから床パネル天端までの床高さ[下図参照]
- ・中央高さ・・・調整範囲の中央値



根太材	ナット	ボルト	調整範囲(mm)	中央高さ(mm)	最低嵌合寸法 (mm)
低床用	S	G ボルト 33	33～46	39	10
		G ボルト 43	43～66	54	
汎用	M	G ボルト 63	63～106	84	
		G ボルト 93	93～136	114	
		G ボルト 123	123～166	144	
		G ボルト 153	153～196	174	
		G ボルト 183	183～226	204	
		G ボルト 213	213～256	234	
		G ボルト 243	243～286	264	
		G ボルト 273	273～316	294	
		G ボルト 298	298～341	319	
		G ボルト 323	323～366	344	
		G ボルト 348	348～391	369	
		G ボルト 373	373～416	394	

2-6 ナットとボルトの組み合わせ

システム根太 SG は、遮音対策用と荷重対策用で仕様が異なるため、下記の表にもとづいて使い分けてください。

ナットの本数と長さ	ボルト	施工箇所
システム根太SG 30(20)×30×910-2S(M)	Gボルト	一般部分
システム根太SG 30(20)×30×910-3S(M)	Gボルト	開口部や重量物が載る箇所

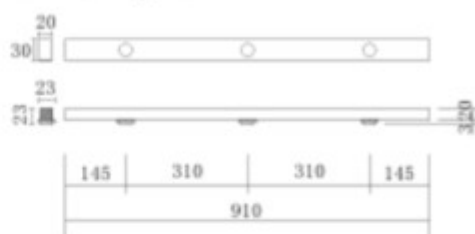
・ナットの本数と長さ

〔システム根太SG 本体(根太材低床用)〕

システム根太SG 20×30×910-2S

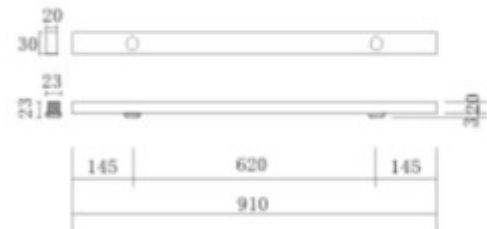


システム根太SG 20×30×910-3S

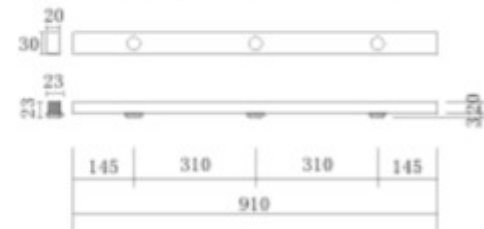


〔システム根太SG 本体(根太材汎用)〕

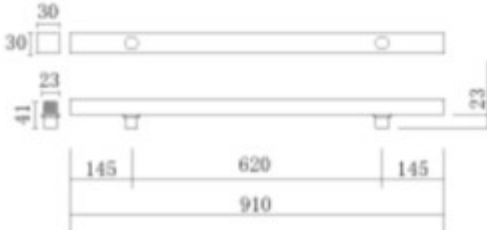
システム根太SG 30×30×910-2S



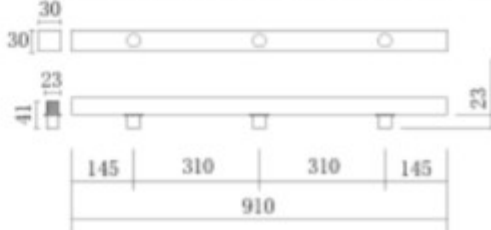
システム根太SG 30×30×910-3S



システム根太SG 30×30×910-2M



システム根太SG 30×30×910-3M



〔「システム根太SG 30×30×910-○△」の表記に関して〕

○: ナットの本数(2本もしくは3本) △: ナットの長さ(SナットもしくはMナット)

3. 施工手順

3-1. 施工を始める前の確認・点検事項

●床スラブのレベル及び不陸の確認

- ・コンクリートスラブのレベルを確認する
- ・きわ根太の高さと掃き出しサッシ、木製建具、家具式クローゼット、配管等の取り合いを確認する
- ・システム根太 SG が設置できないような不陸、傾き等をあらかじめ確認する
不陸、傾き等によって施工ができない状態であれば、元請業者に報告し、補修を行う
- ・床の高さに合った調整範囲のシステム根太 SG を用意する

●使用材料の保管場所

- ・各材料は水のかからない、水平で直射日光が長時間当たらない場所に保管する
- ・床パネルや合板は湿気の少ない場所に直置きする。立て掛けは厳禁とする。

●床下地面の清掃

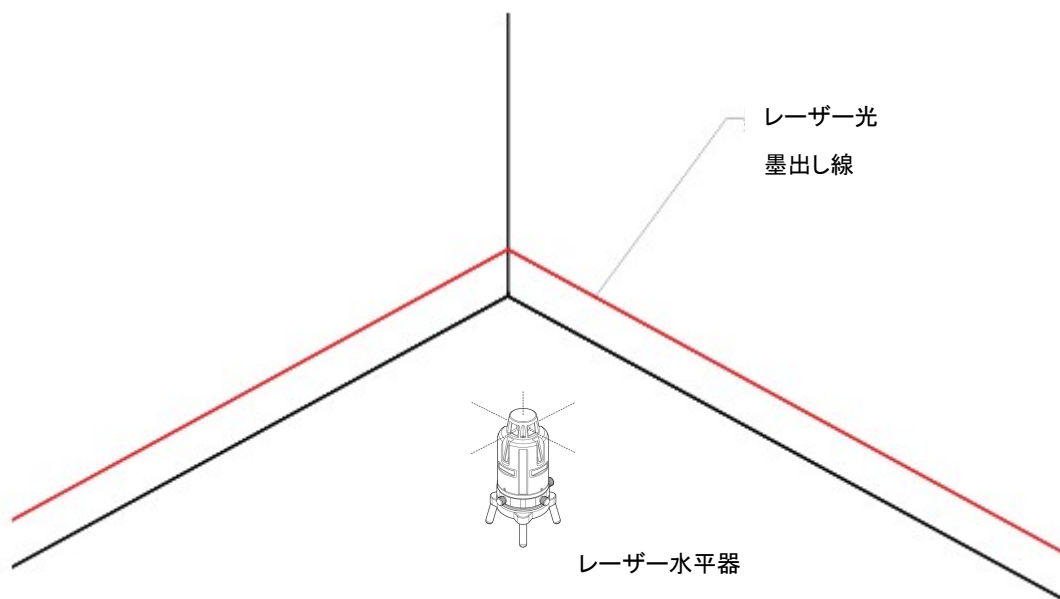
- ・木屑、ゴミ等を除去する
- ・スラブが濡れている場所、水たまりがある場所は、乾かす

3-2. 施工手順

①墨打ち

レーザー水平器を設置し、根太の天端に合わせてレーザーを壁に当てます。レーザーの高さは、床の仕上げ高さ及び仕上げ材の厚みを図面でご確認ください。

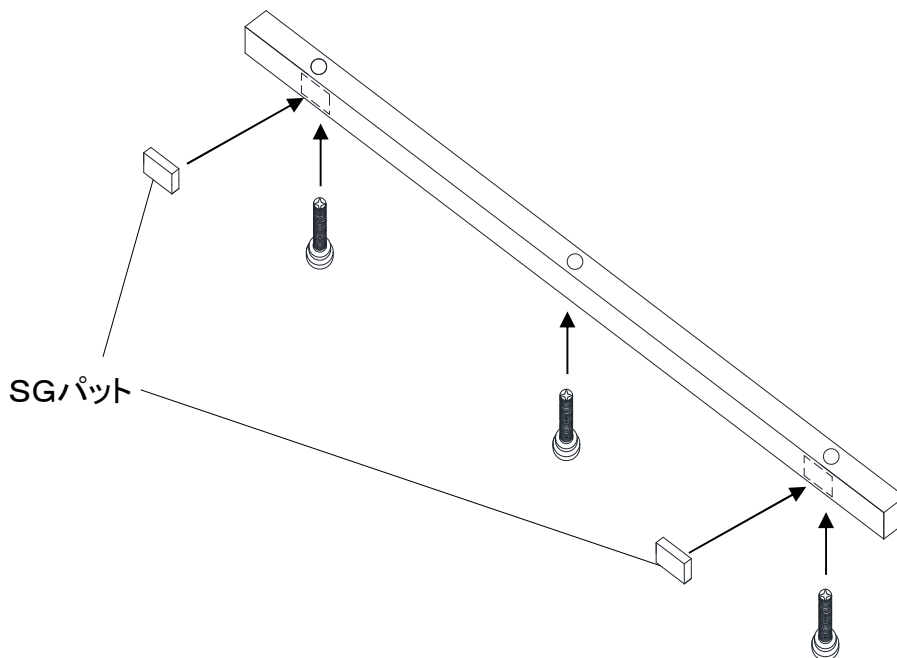
レーザー水平器がない場合は、従来通り、上記高さにて墨出しを行います。



②システム根太SGの組立

所定の高さにある程度合わせてシステム根太SGのナット部にGボルトをセットします。

根太材の側面の所定の位置にSGパットを貼り付けます。

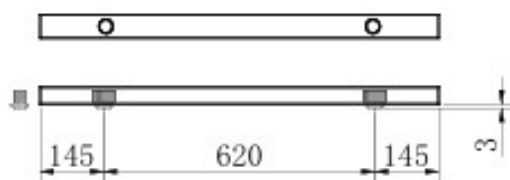


〔SGパット貼り付け位置〕

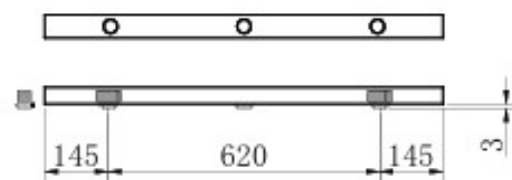
下記の図に基づいてSGパットを根太材の所定の位置に貼り付けてください。

■ : SGパット貼り付け位置

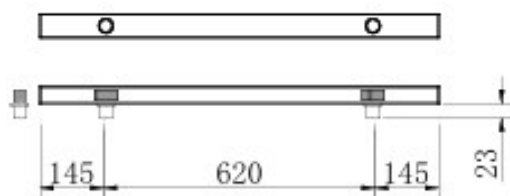
システム根太SG 30×30×910-2S



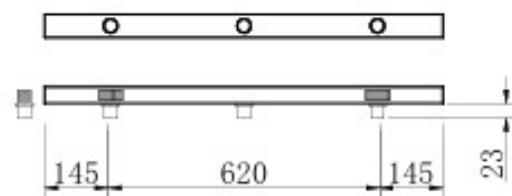
システム根太SG 30×30×910-3S



システム根太SG 30×30×910-2M



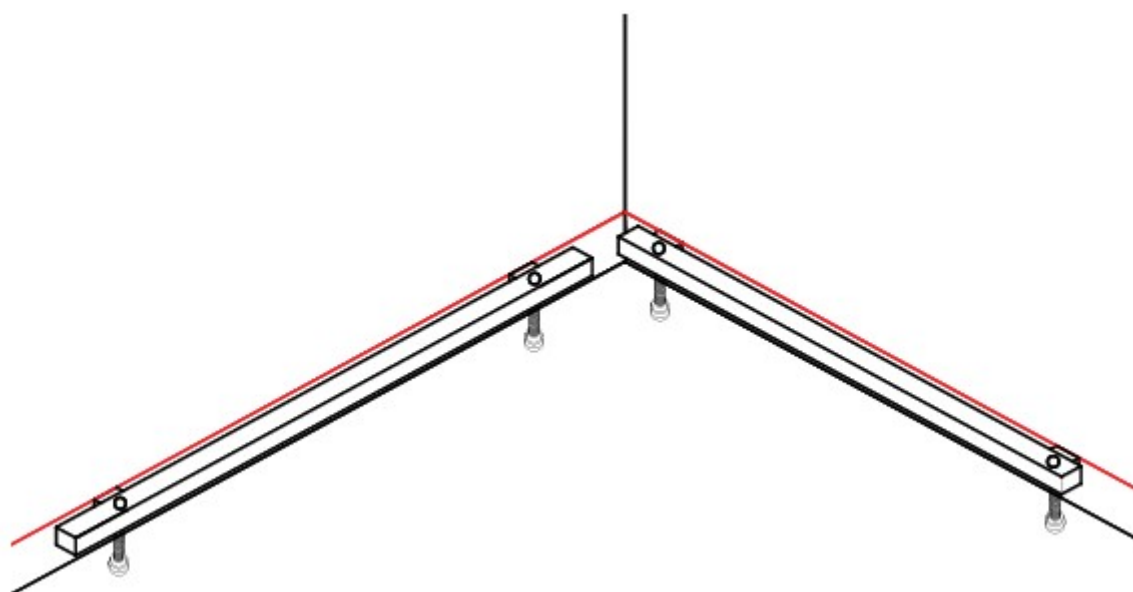
システム根太SG 30×30×910-3M



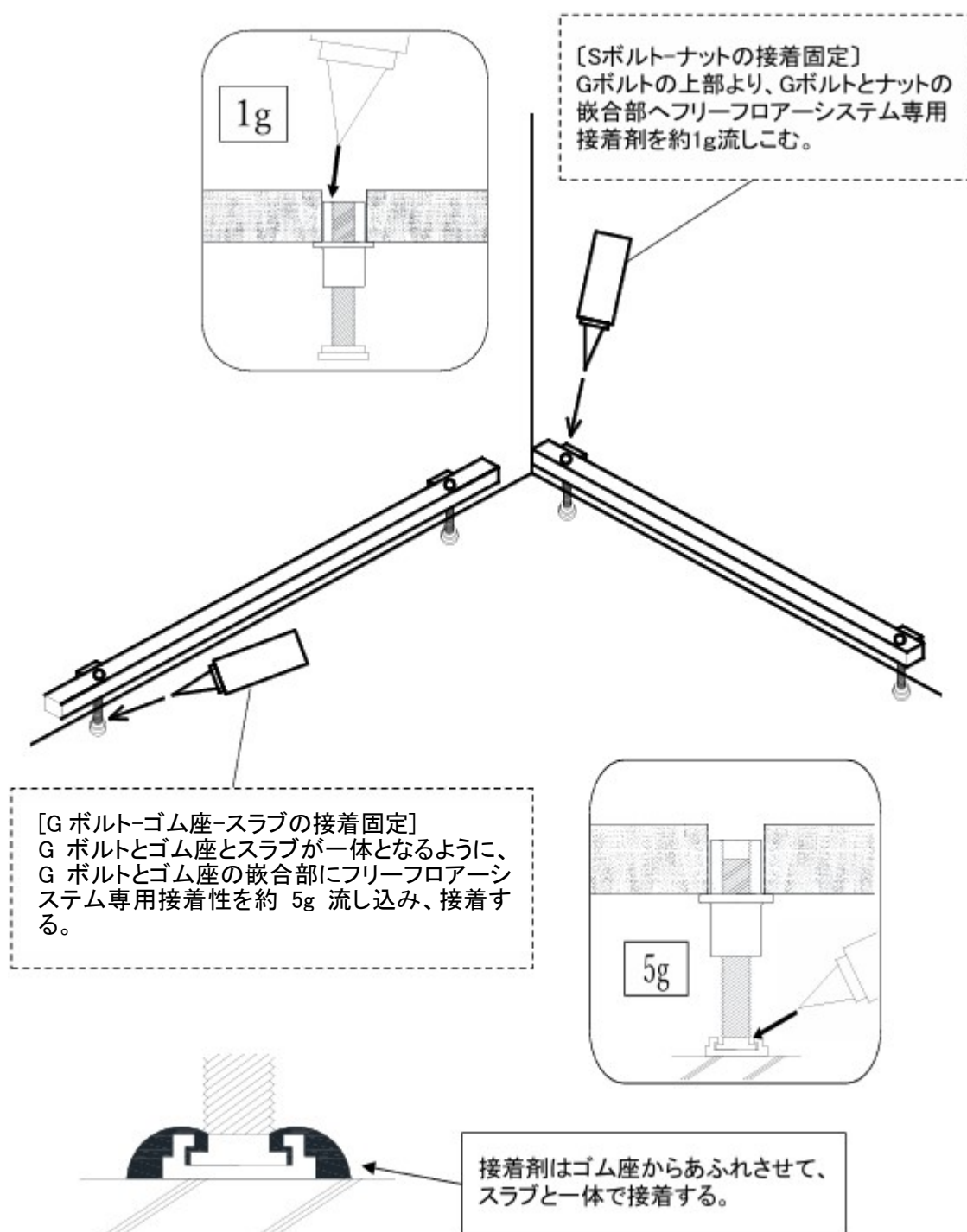
③システム根太SGの取り付け

Gボルトが接地する床スラブにホコリ等が無いことを確認し、レーザー光（墨出し線）に合わせながらプラスドライバー（3番）でレベル調整を行います。

調整後、SGパットの剥離紙を剥がし、基準墨を確認しながら壁に貼り付けます。



④G ボルト-ナットの接着固定、G ボルト-ゴム座-スラブの接着固定



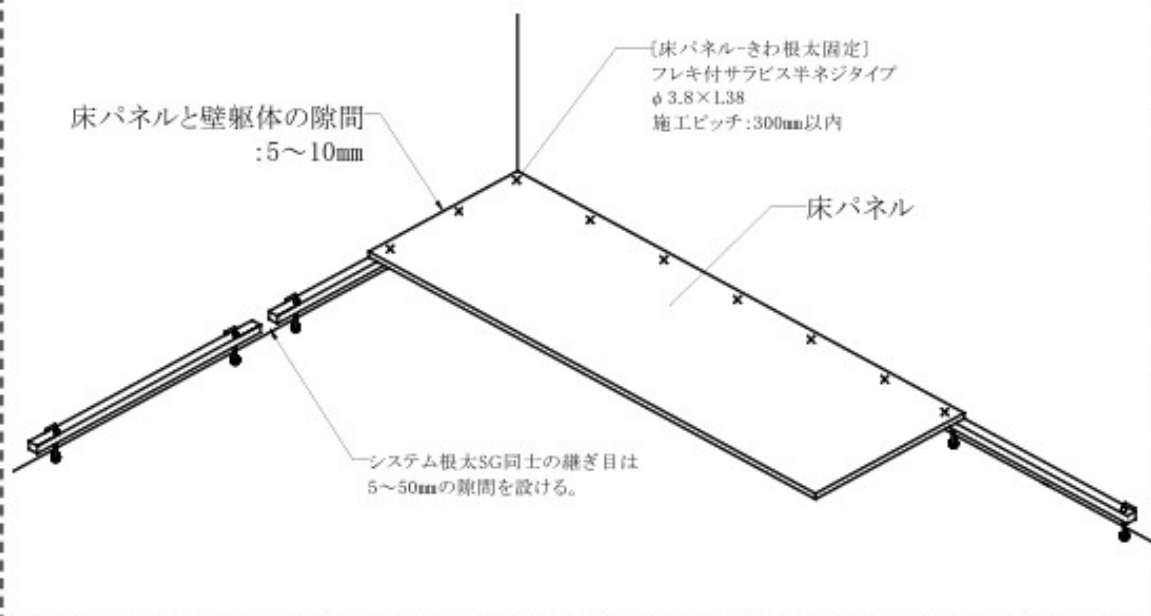
※注意

- ・約2時間で初期接着力が現れます。(低温時には硬化に時間がかかる場合があります。)
- ・接着養生中はシステム根太SGIに触れたり、床への衝撃を避けてください。(床レベルが変わる可能性があるため)

〔床パネルの敷込み〕

床パネルをシステム根太SGに載せる時、床パネルと壁躯体との間に5～10mmの隙間を設けてください。

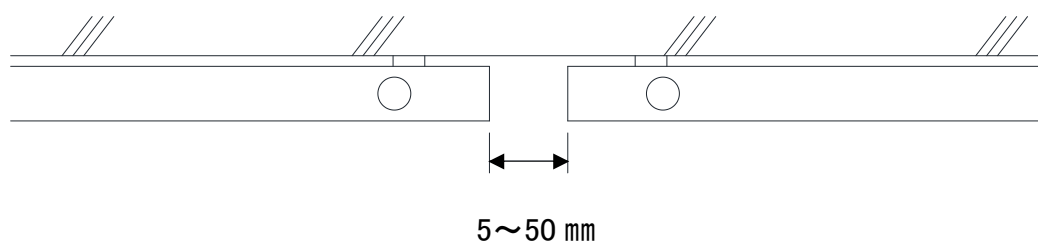
システム根太SGにかかる床パネルをフレキ付皿ビス(φ3.8×L38、ピッチ300mm以内)で固定してください。



4. 配置方法

4-1. 一般部

●システム根太 SG 同士の継ぎ目は 5～50 mm の隙間をあけます。



〔跳ね出し部分のカット〕

壁躯体の長さによってはシステム根太SGがきれいに納まらない場合があるため、根太材の跳ね出し部分を必要長さにカットしてください。（跳ね出し部分のカットは最大120mmまで）

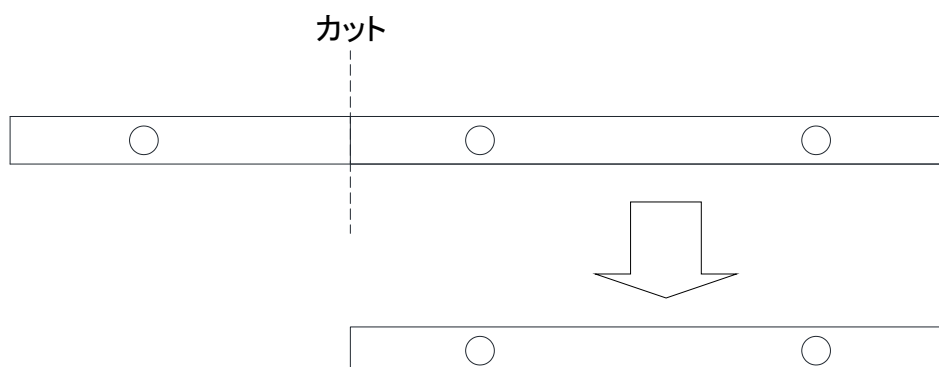
システム根太SG30×30×910-3S(3M)の場合は、3本の支持脚のうち、2本の支持脚を残して根太材をカットして使用することも可能です。



・システム根太SG30×30×910-2S(2M)の場合

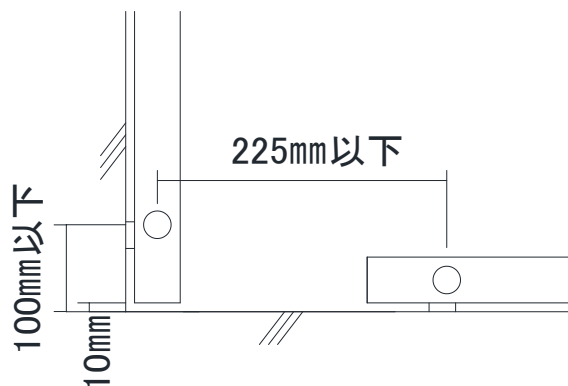


・システム根太SG30×30×910-3S(3M)の場合



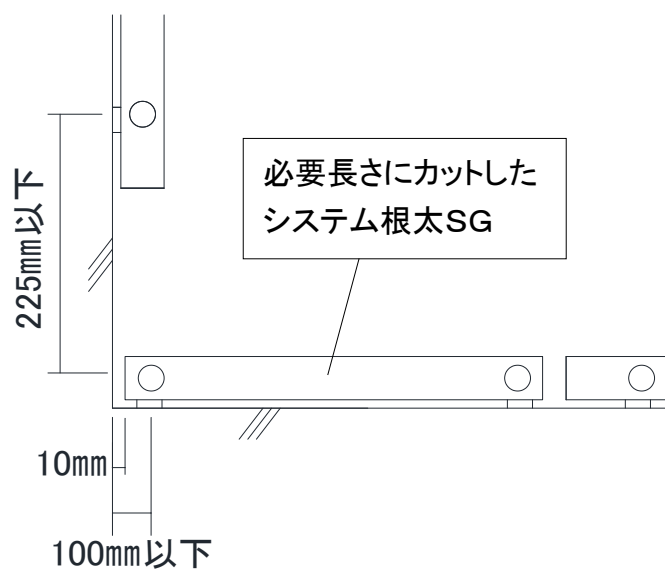
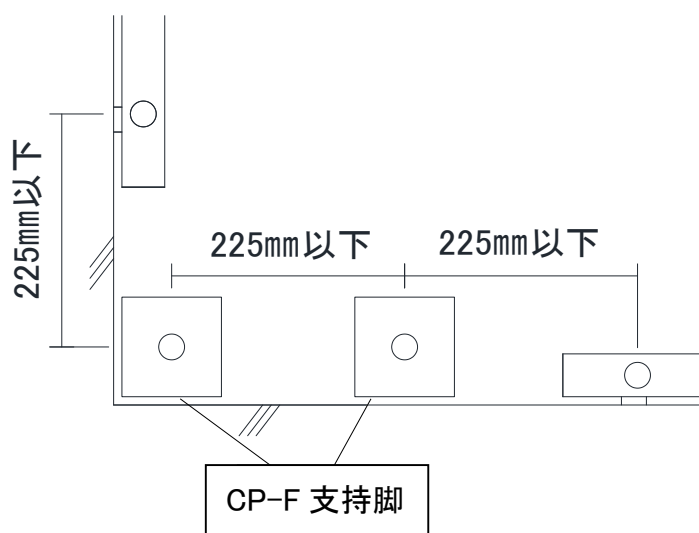
4-2. 入隅部

- システム根太SGの支持脚が壁躯体から 100 mm 以下になるように、どちらか一方の根太材の跳ね出し部分をカットします。また根太材の端部は壁躯体から 10 mm 程度の隙間をあけます。もう一方のシステム根太SGは、支持脚間の距離が 225 mm 以下になるようにします。



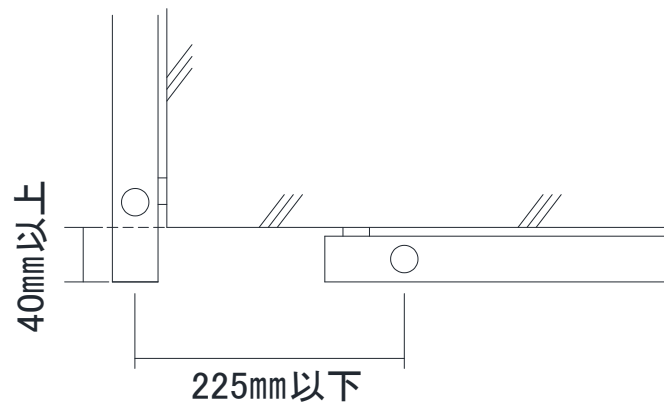
〔225 mmを超えてしまう場合〕

システム根太 SG の支持脚との間隔が 225 mm 以下になるように CP-F 支持脚を設置する〔左下図〕か、跳ね出し部分を必要長さにカットしたシステム根太 SG〔右下図〕を設置します。



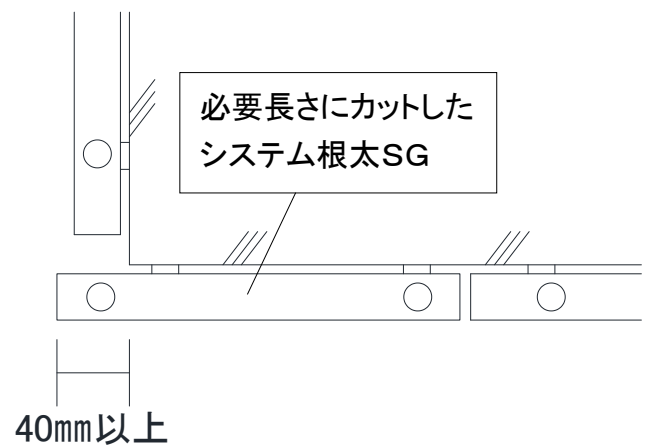
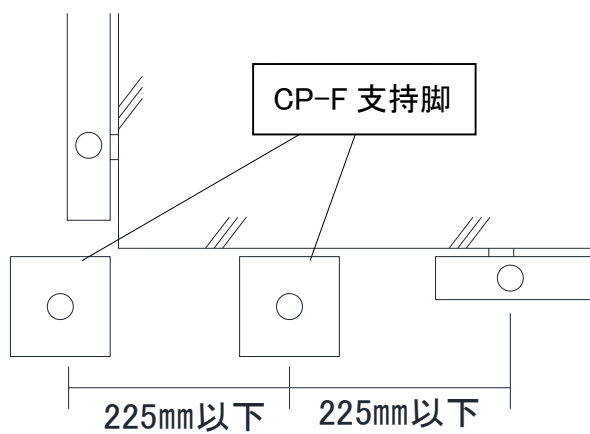
4-3.出隅部

- どちらか一方のシステム根太SGの支持脚を跳ね出し部分が出隅部から 40 mm以上飛び出すようにし、もう一方のシステム根太SGの支持脚との距離が 225 mm以下となるようにします。



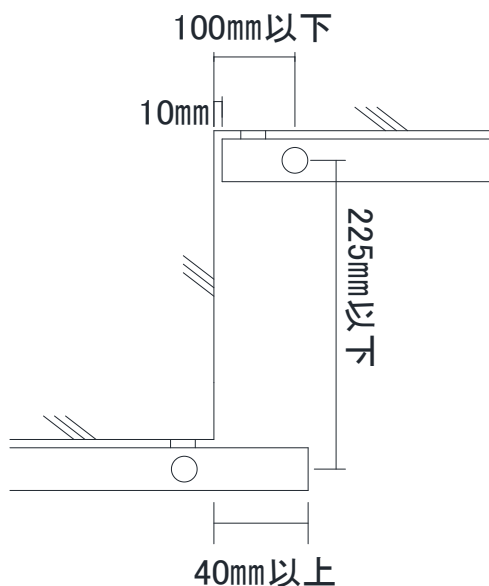
〔225 mmを超えてしまう場合、40 mm以上飛び出せない場合〕

システム根太 SG の支持脚との間隔が 225 mm 以下になるように CP-F 支持脚を設置する〔左下図〕か、跳ね出し部分を必要長さにカットしたシステム根太 SG〔右下図〕を設置します。



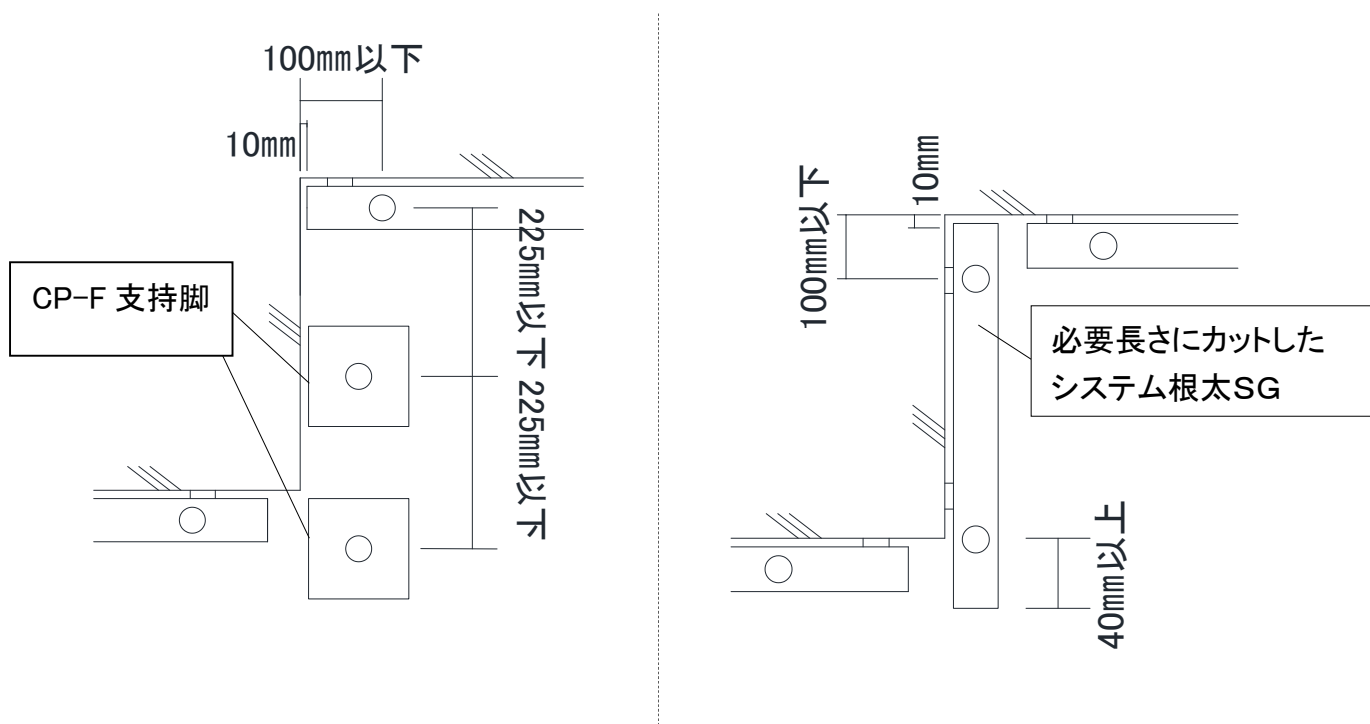
4-4. 柱型部

- システム根太SGの支持脚が壁躯体から 100 mm以下になるように、どちらか一方の根太材の跳ね出し部分をカットします。また、根太材の端部は壁躯体から 10 mm程度の隙間をあけます。もう一方のシステム根太SGは、支持脚間の距離が 225 mm以下になるように施工し、かつ、システム根太 SG の跳ね出し部分が柱型部から 40 mm以上飛び出すようにします。



〔225 mmを超えてしまう場合、40 mm以上飛び出せない場合〕

システム根太 SG の支持脚との間隔が 225 mm以下になるようにCP-F支持脚を設置する〔左下図〕か、跳ね出し部分を必要長さにカットしたシステム根太SG〔右下図〕を設置します。



4-5. パーティクルボードのかかり寸法について

- パーティクルボードの根太材へのかかり寸法が 50mm 以上となるように、あらかじめパーティクルボードの割付けを考慮して、システム根太SGを配置します。

